第 23 回
2016. 10. 19

講　師：
邵建國（北京外國語大學）

講　題 / テーマ：
國家改造運動與對外侵略－ 1920 年代的日本

摘要：

隨著第一次世界大戰末期歐洲各種社會思潮的傳入，以及俄國十月革命後共產主義思想的傳播，加上日本國內資本主義經濟發展導致的貧富分化加劇所導致的工人運動、農民運動的興起，日本國內在 1918 年以後出現了各種各樣的國家改造團體。其中既有傾向共產主義的，也有傾向無政府主義的，更有傾向國家社會主義或日本主義的團體。它們的共同點是要求對當時的日本政治和經濟體系進行大規模的改革。

要旨：

▲邵建國教授

第一次世界大戦末期ヨーロッパから社会思潮が流れ込み、またロシアの十月革命の後には共産主義思想が伝わった。日本国内でも資本主義経済の発展が貧富の差をさらに拡げ、労働運動や農民運動が活発化した。このような社会の流れにともない、日本国内では1918年以降さまざまな国家改造団体が現れた。その中には共産主義寄りのものや無政府主義寄りのもの、また国家社会主義や日本主義寄りの団体もあったが、彼らの共通点は、当時の日本の政治や経済体系に対して大規模な改革を行うよう求めている点であった。

学術講演会

第 23 回　2016.10.19

對於席捲全國的「國家改造」運動，日本既有的統治集團實際上採取了區別對待的方針。他們首先著力清除的是共產主義、社會主義運動團體，繼而對改良主義團體的普選要求做出了些許讓步，最後將右翼激進勢力的國家改造要求成功地引上了對外擴張的道路。正是因爲日本的軍人、官僚、政黨領袖等精英統治集團內部互相牽制，拒絕大規模的政治、社會改革，才使得日本社會各階層矛盾日益加深，以至於最後的出路是走向大規模的對外侵略。本報告將通過分析不同種類國家改造團體的綱領、代表人物的不同政治前程來解說這一圖景。✦

全国を席巻した「国家改造」運動に対して、日本の当時の統治者たちはそれぞれ別個に対応するという方針を採った。政府はまず共産主義と社会主義の運動団体を排除し、続けて社会改良主義団体の普通選挙要求に対してある程度譲歩し、最後は右翼過激派の国家改造要求を対外拡張の方向へとうまく誘導した。まさに、日本の軍人や官僚、政党の党首といったエリート統治者同士で互いに牽制し、政治や社会の大きな改革を拒んだ。そのため、日本社会の階層間に矛盾が深まっていき、最終的に大規模な対外侵略に向かうしかなくなった。今回の講演では、さまざまな国家改造団体の綱領や代表的人物のそれぞれの結末の分析を通して、このテーマについて述べる。✦

第 24 回
2016.11.02

講　師：
劉雨珍（南開大學）

講　題 / テーマ：
筆談と東アジア文化交流－清朝初代駐日公使館員の在日筆談資料を中心に－

摘要：
筆談也稱筆話、筆語，是東亞漢字文化圈中語言相異的各地區之間主要的交流方式之一。即使語言不通，利用漢字、漢文、漢詩的話，溝通也足以成立。筆談在東亞文化交流史中扮演獨特的角色，可說是漢字文化圈中文化交流的特殊景象。

要旨：
筆談は筆話、筆語とも言い、東アジア漢字文化圏の異なる地域と言語間の主要な交流方式の一つである。話し言葉が通じなくても、漢字・漢文・漢詩を使えばコミュニケーションが十分成り立つ。筆談は東アジア文化交流史において独特な役割を果たしており、漢字文化圏における文化交流のユニークな風景と言える。

▲劉雨珍教授

第 24 回　2016.11.02

衆所皆知，在中國發現的筆談資料不多，反倒是在日本的則多數被保存下來。筆者發現，在『清朝首屆駐日公使館員筆談資料彙編』（上下、天津人民出版社、2010 年）中，收錄了何如璋、張斯桂、黃遵憲、沈文熒等清朝初代駐日公使館員在駐日期間，與大河內輝聲、宮島城一郎、石川鴻齋、岡千仞、增田貢等明治期日人，以及朝鮮修信使金宏集等人的六種筆談資料。從中可以解讀出以東京爲舞台所展開的東亞文化交流的面貌。在清朝初代駐日公使館的在日筆談資料中，數量最多的是大河內輝聲及宮島誠一郎的筆談紀錄。兩人皆頻繁拜訪公使館，並仔細整理保存了龐大的筆談紀錄。

本演講中，將使用新考查的筆談資料，從琉球主權歸屬交涉、朝鮮開國、『日本雜事詩』的改訂以及『日本國志』的資料收集、漢詩的唱和及切磋等視點，剖析以東京爲舞台所展開的東亞文化交流的實際情形。✦

▲學生提問

周知のように、筆談資料は中国でさほど発見されておらず、むしろ日本において数多く保存されている。筆者は『清朝首届駐日公使館員筆談資料彙編』(上下、天津人民出版社、2010年)において、何如璋、張斯桂、黄遵憲、沈文熒ら清朝初代駐日公使館員の日本駐在期間(1877－1882)に、大河内輝声、宮島誠一郎、石川鴻斎、岡千仞、増田貢ら明治期日本人および朝鮮修信使金宏集との筆談資料を六種類収録した。そこから東京を舞台に展開される東アジア文化交流の様相を読み取ることができる。清朝初代駐日公使館の在日筆談資料の中で、一番量的に多いのは、大河内輝声文書と宮島誠一郎文書における筆談記録である。二人とも足繁く公使館を訪ね、膨大な筆談記録を大事に保存し整理している。

本講演では新たに調査した筆談資料を用いながら、琉球帰属交渉、朝鮮開国、『日本雑事詩』の改訂と『日本国志』の資料収集、漢詩の唱和と切磋琢磨などの視点から、東京を舞台にして展開された東アジア文化交流の実態に迫ってみたい。✦

第 25 回
2016.12.19

講　師：
米山禎一（台灣大學退休教授）

講　題 / テーマ：
新ロマン主義の再解釈と白樺派—武者小路実篤を中心として—

摘要：

本次演講主要針對以下兩點進行討論。

一、武者小路爲何成爲超越（超絕）主義者？這與他如何從精神層面超脫出身背景的重擔有關。我將以武者小路爲始，探討白樺派至今是如何被理解與批判，也論述這些理解與批判爲何不當。

二、與第一項論點相關的一連三個問題，(1)「何謂新浪漫主義」、(2)「日本也有新浪漫主義嗎」、(3)「若有的話，其中心人物是誰呢」。首先就 (1) 與 (2) 併論，再就 (2) 與 (3) 論述之。

要旨：

主に二つの論点に関して話します。

▲米山禎一教授

第一の論点は、武者小路はなぜ超越（超絶）主義者になったのか、どのように出自の重荷から精神的に抜け出せたのかという問題と関連しています。武者小路を始め、白樺派がどのように批判され、理解されてきたのかについて述べ、そのような批判や理解がなぜ不当なのかについて論じます。

第二の論点は、第一の論点と関連して、一連の三つの問題、1.「新ロマン主義とは何か」2.「日本にも新ロマン主義があったのか」、3.「あったならば、その中心人物は誰なのか」です。まず、1と2について併せて論じ、つぎに、2と3について論じます。

第 25 回　2016.12.19

關於前者，我將從歷史資料探索新浪漫主義的輪廓，並以此與武者小路的思想特質相互比較，揭示新浪漫主義的定義。

▲學生提問

而就後者，首先將說明吉田精一著作中對新浪漫主義的解釋、日本近代文學史上對浪漫主義之評價，以及對白樺派的理解和評價等，再論述先學研究中個人贊同的論點及理解與討論不足之處，以深化關於新浪漫主義內容的探討。其中，也會從新浪漫主義的視點討論夏目漱石及耽美、享樂主義文學。

最後，將透過整體的討論，來思考武者小路與白樺派在近代文學史上應如何定位的問題。✦

前者については、歴史的な資料を用いて、新ロマン主義の概要を探り、それを武者小路の思想の特質と見比べて、新ロマン主義の定義を提示します。

後者については、吉田精一の著作における新ロマン主義の解釈と日本近代文学史における取り扱い方、白樺派についての理解と取り扱い方を提示して、その首肯すべき点、理解と議論が欠落している点、首肯できない点について論じ、新ロマン主義の内容についての議論を深めます。その過程で夏目漱石や耽美・享楽主義の文学についても新ロマン主義の視点から論じます。

全体を通じて、武者小路と白樺派の近代文学史上における位置をどのように定めるべきかについて考えます。✦

第 26 回
2016. 12. 20

講　師：
劉傑（早稲田大學）

講　題 / テーマ：
日本の「中國通」と歷史認識問題

摘要：

戰前，日本的政府組織及軍隊中有許多活躍的「中國通」。他們對中國的理解及認識，對日本的中國政策帶來了何種影響？又如何以歷史學的角度評價他們的思想及行動，皆是戰前中日關係史上非常重要的課題。

例如，畢業於東亞同文書院的石射猪太郎作爲外務省東亞局長（任期 1937.5.12-1938.11.9），在盧溝橋事件爆發時，爲早日終結中日戰爭而奔波。雖然日益擴大的戰爭局勢，使得石射先生的努力終未能獲得回報。

要旨：

▲劉傑教授

戰前多くの「中国通」が日本の政府組織や軍部のなかで活躍した。彼らの中国理解と対中国認識が、日本の中国政策にどのような影響を及ぼしたのか。また、彼らの思想と行動を歴史学的にどのように評価するのか、戰前の日中関係史の重要なテーマである。

例えば、東亜同文書院を卒業した石射猪太郎は盧溝橋事件勃発時の外務省東亜局長（在任一九三七年五月一二日—三八年一一月九日）として日中戦争の早期解決に奔走した。戦争がその後拡大の一途をたどり、石射の努力は報われることはなかった。石射と彼をめぐる「和平派」グループを日中戦争史のなか

第 26 回　2016.12.20

然而，石射先生及以其爲中心的「和平派」這一群人，在中日戰爭史中應如何定位？當道義和國家利益產生衝突時，外交官是如何採取行動的？由此進一步探討「中國通」外交官在中日關係史中的地位。要掌握中日戰爭的全貌以及中日關係的多面性，須先從處理上述這些問題開始。

本報告將透過中日戰爭初期石射猪太郎的活動，檢視所謂「中國通」外交官的思想與行動，並試圖探尋思考日中關係史的新視角。

此外，「歷史認識」是影響東亞國際關係的重要因素之一。一個大「時代」以及在此時代發生的個別事件，我們如何探索兩者之間的關連性進而理解歷史。我認爲歷史認識的問題應從這樣的視點來思考。✦

でどのように位置づけるのか、道義が国家の利益と衝突するとき、外交官はどのように行動したのか。さらにそこから発展して、「中国通」外交官を日中関係史の中でどのように位置づけるのか、という問題は、日中戦争の全体像と日中関係の多面性を把握する上で必要不可欠な作業である。

本報告は日中戦争初期の石射猪太郎の活動を通して、いわゆる「中国通」外交官の思想と行動を検証し、日中関係史を検討するための新たな視角を探ってみたいと思う。

また、東アジアの国際関係に大きな陰を落としているものに、「歴史認識」の問題がある。大きな「時代」と、その時代に展開された個別の事象をどのように関連させながら、歴史を理解するのか。歴史認識の問題をこのような視点から考えてみたいと思う。✦

第 27 回
2016. 12. 20

講　師：
山田満（早稲田大學）

講　題 / テーマ：
早稲田大学社会科学総合学術院の設立経緯と教育理念

摘要：

1966 年創設的社會科學部在今年迎接 50 週年的到來。雖是早稻田大學整體中較新的學部，但對學部而言，無疑是跨越了半個世紀的重大分水嶺。在此期間，有許多畢業於本學部的傑出校友活躍於各個領域。此時此刻，由我以及諸多教職員、校友們肩負起橫跨半世紀重責的同時，也懷抱著邁向下個半世紀的藍圖。

社會科學部，與由 1994 年設立的社會科學研究科、2016 年設立的尖端社會科學研究所一同整併爲社會科學總合學術院，提出「跨領域」、「臨床化」、「國際化」三大理念。要深入理解如拼圖般複雜的國內・國際問題，

要旨：

▲山田満教授

1966年に創設された社会科学部は本年で50周年を迎えることになる。早稲田大学全体では比較的新しい学部であるが、半世紀という大きな節目であることは間違いない。この間、多くの本学部出身の先輩諸氏が各方面で活躍していることからもわかる。半世紀の重みをいま私をはじめ多くの教員、校友らが噛みしめると同時に、次の半世紀に向けて新たなヴィジョンを抱いているところである。

社会科学部は、1994年に開設した大学院社会科学研究科、2016年設立の先端社会科学研究所ともに社会科学総合学術院を構成し、〈学際化〉、〈臨床化〉、〈国際化〉の三つの理念を掲げてきた。これら三つの理念は、パズルのような複雑化した国内問題や国際問題を理解し、新しい問題解決能力を培うための社会構想力を身に付けるうえでの基本的な概念であると確信している。

〈学際化〉とは、複眼的な視座から問題の本質を読み解くことであり、社会科学部では政治

第 27 回　2016.12.20

並習得解決新問題的能力，我們堅信這三大理念是其基本概念所在。

所謂「跨領域」，是利用多方面的視角來解讀問題本質。在社會科學部中，除了政治學、法學、經濟學、商學等社會科學基本的學術領域之外，也有歷史及文化等人文科學領域，以及生命、環境等自然科學，甚至是資訊科學等專門科目可以選修。藉由廣泛學習這些專業，訓練從不同角度理解問題的能力。「跨領域」已然成爲社會科學部獨具的魅力。而同樣地，在本學部創立以來即設有夜間部，擁有許多已與社會接軌的夜間部學生，「臨床化」是我們的優勢。根據各個研究領域的專業，透過實際操作，學生在學期間可以期待培養出臨場理解問題本質的能力。最後，透過開設英語課程，招收外國留學生，並鼓勵本校學生留學，積極推動「國際化」的進展。✦

学、法学、経済学、商学などの社会科学の学問分野はもちろん、歴史や文化などの人文科学領域、生命、環境などの自然科学、さらには情報科学などの専門科目が選択できる。これらの専門を広く学ぶことで問題のさまざま側面を理解する能力を磨く。〈学際化〉は社会科学部ならではの魅力となっている。また同様に、〈臨床化〉は当学部設立以来、社会との接点を有する学生が多く在籍していた夜間部の歴史があり、アドバンテージの高い分野である。それぞれの研究分野に基づき現場に出ていくことで、在籍中に問題の本質を現場から理解することが期待できる。最後に、英語プログラムの開設、留学生の受け入れ、さらには留学への推進等により積極的に〈国際化〉が進んでいる。✦